

令和 8 (2026) 年度  
追手門学院大手前中学校  
入学考査 A 日程 国語  
問題用紙

- ・ 解答するときには文章記号も一字として答えなさい。
- ・ 各設問につき、記号は一回しか使用してはいけません。

注意

コンピューターで答案を読み取るため、はっきりと濃く解答を記入してください。  
濃さが十分でない場合は解答が読み取れず不正解になる場合があります。

受験番号



問題は次のページから始まります。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鈴江、笛吹、月谷、高津、津島、阿久は同じ高校に通う野球部である。部長の田中、監督の若杉のもと、練習試合に挑んだが、敗北した。次の文章はそれに続く場面である。

「野球部やめます」

鈴江が思い詰めたような顔で言ってきたのは、昨日のことだ。

組み合わせも決まり、夏に向けてラストスパートに入る時期。

例によって週末には練習試合が入っていたが、先日の相手はいわば格下だった。去年まではほぼ同じレベル、そして学校も近いということ、よく練習試合を組んでいた相手だ。

選手たちは完全になめてかかっていた。春大会ベスト16、今やはるか格上と思われた相手にも勝利する力がある自分たちだ。練習にもならねえよ、と、囁く者もいた。

しかし結果は、敗北だった。月谷以外の投手を投入したことを差し引いても、点を取られすぎた。

連鎖するエラー、大振りするばかりで全くつながらない打線。

ボロ負けした広栄戦とたいして変わらない。いや、内容としてはこちらのほうがずっとひどい。

「なめてかかるからこうなるんだ！ 考えなしにプレーしていたら、悪い流れを断ち切ることもできない。ただ【A】いくだけだ。広栄はうちと試合をする時、なめてたか？ ただ大振りしていたか？ よく考えろ！」

試合後、①若杉は久しぶりに額に青筋を立てて叱りつけた。

今までは【B】怒鳴りとばすことをしなかったし、選手が決めたことにあまり口出しもしなかった。

正直言って、監督が徹底して型にはめた指導をしたほうが楽といえは楽だ。選手に任せると規律がなくなりがちだし、だらけだしたら止まらない。だから徹底した指導のもと練習した方が効率的だし、成長も断然早い——以前、指導法について相談した時、田中部長はそう語った。

「自分もかつてはそうやっておりますしね……でもたしかにこれは手堅いですが、生徒の【X】は育ちません……。自立して

いないので、試合中に悪い流れがきても、どうしていいかわからず、格下の相手にもころつと負けるのですよ……。監督が※采配をふるうとは言ってもね、結局、試合をするのは生徒たちなので……」

彼の話聞いて、若杉は生徒の自主性に任せ、可能なかぎりサポートする方針をとった。そもそも素人の自分に、徹底した管理指導などできるはずもない。生徒がダラけた時にはきっちり締めようと決めていたが、②主将の笛吹が目光らせていたため、叱りつけるような場面はほとんどなかった。

なのにここきて、格下にあっさり負けた。生徒たちはどうしていいかわからず「C」して、やがていらつき、よけいにエラーを生んだ。チームプレイもなにもあったものではなく、雰囲気も最悪だった。

「このままでは甲子園どころか、夏に一勝もできんぞ。どういうチームを目指してきたか、どういう野球をやりたいのか。皆で改めてよく考えろ」

そう言い渡した矢先の、鈴江の退部宣言である。

ただ、③若杉は困りはしたが、驚きはしなかった。春大会からスランプに陥り、回復の兆しがなかなか見えず悩んでいることは知っていたし、最近凡ミスも増えるようになってきた。

キャッチングの練習につきあったり、時には話し合ったりしてきたが、あまり改善は見られなかった。昨日の試合では、気分を変えさせようとファーストを守らせてみたが、そこでもミスをしてしまい、点を失った。さすがに周囲も、かける言葉を失ってしまった。重症である。

だから、やめると言ってくることも想定していた。しかし――

「俺も無理です」

まさか、もう一人いっしょに来るとは思わなかった。

レフトの高津である。

こちらはとくに悩んでいるようには見えなかったから驚いた。ただ、隙あらばサポろうとしているのは知っている。そのせいでとくに笛吹に怒られるはめになり、よくふてくされていた。

え、なんでおまえも来んの。ぶっちゃけ便乗してない？と言いたいのをこらえ、冷静な教師の顔を繕う。

「そうか。まずは、理由を聞いてもいいか？」

昼休みの生物準備室は人気がない。そのため、相談事がある部員はだいたい昼にやって来る。

促しても、鈴江はなかなか口を開かない。青ざめた顔でうつむいている。隣の高津も、最初は鈴江が言うべきだと思っていたのかしばらく黙っていたが、痺れをきらしたように話し出した。

「体力的にも精神的にも、もう限界です。どういう野球したいかよく考えろって、監督言ったじゃないですか。先輩たちは甲子園とか言ってますし、できれば協力したいと思ってましたけど、俺やつば④普通の部活動したくて入ったし、もうついていけないっす。疲れ果てました」

「……そうか。あと一ヶ月もすれば、三年生は引退だ。今まで一年半頑張ってきた、あと一ヶ月がまんすれば、高津たちのチームになるんだ。あと一ヶ月、がんばってみないか？ もつたないじゃないか」

月並みだなど思いつつ、やんわりと引き留める。

「それは何度も考えました。な、鈴江」

高津は隣の鈴江に目を向けた。鈴江は、Yの鳴くような声で「……はい」と言った。

「たしかに前は、あと三ヶ月、あと二ヶ月ガマンすればって思いながらやってきました。でも、あと一ヶ月って思ったたら、本気で吐きそうになって。嫌いなもの頑張って食べてたけど、あと一口がどうしても入らない時ってあるじゃないですか。あれに近いもんかなと」

どういう喩えだよ。若杉は心の中でつつこんだ。たしかにあと一口が入らない時はあるけど。

「毎日くたくたで帰っても何もできないし、このままじゃ中間テストに続いて※赤点確定だし……。なんで他のことぜんぶ犠牲にして野球やってんのかなって疑問に思ったら、止まらなくなっただけです。甲子園行きたいって言い出したの今の三年だけで、別に俺らそんなこと一言も言ってないのに。今の一年は、三年生がああなってから入部してきたから、まあわかって入ってきたんだらうけど、俺らの時はまだ普通の部活だったし」

「津島と阿久も知っているのか？」

「いちおう話しました。最初は引き留められたけど、⑤わかってくれました」

高津は喋りながら、「D」鈴江をうかがい見た。

「鈴江も同じ気持ちなのか」

水を向けると、鈴江ははっとしたように顔をあげた。目が合うと、一瞬息を呑んだが、すぐに覚悟を決めたように見つめてくる。

「はい」

「なら自分の口で説明しなさい」

体の両脇に垂らした手が、きつく握られるのを見る。

(須賀しのぶ『夏は終わらない 雲は湧き、光あふれて』より)

※「嘯く」：自分を強そうに見せたり、自信たっぷりにえらそうなことを言ったりすること。

※「采配をふるう」：リーダーとして、多くの人に指示を出して動かす。

※「赤点」：不合格点のこと。

問一 【A】～【D】にあてはまる語句としてそれぞれ適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ちらりと      イ ずるずる      ウ ころっと      エ ほとんど      オ おろおろ

問二 — 線部①「若杉は久しぶりに額に青筋を立てて叱りつけた」とありますが、なぜ若杉はこのような行動をとったのですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たかだか格下との練習試合であると相手チームを見くびって、本気で勝負をしなかったから。  
イ チームの実力がなさすぎて、甲子園に出場どころか今後の試合に勝利することはできないから。  
ウ 選手に任せきりにしたせいで敗北してしまったと、監督である自分自身に怒りをぶつけたから。  
エ 試合中に打線をつなこうとする努力を全くせず、雰囲気が悪いまま試合を終えてしまったから。

問三 Xにあてはまる言葉を文中から漢字三字でぬき出しなさい。

問四 — 線部②「主将の笛吹」とありますが、主将としての笛吹の様子を説明した次の文章の【 】にあてはまる言葉を文中から九字でぬき出しなさい。

【 】 する部員に対して、主将として普段から厳しく指導している。

問五 — 線部③「若杉は困りはしたが、驚きはしなかった」とありますが、その理由を五十字以内で説明しなさい。

問六 — 線部④「普通の部活動」とは高津にとってどのようなものですか。三十字程度で説明しなさい。

問七 Yにあてはまる漢字一字を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 牛      イ 鳥      ウ 蚊<sup>か</sup>      エ 猫<sup>ねこ</sup>

問八 — 線部⑤「わかってくれました」とありますが、何を「わかって」くれたのですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 甲子園を目指していないこと。      イ 高津が野球部をやめること。  
ウ 次のテストで赤点を取りたくないこと。      エ 体力も精神も限界であること。

問九 この文章の鈴江について説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何事にも真面目に取り組むが、悩みを言えずに感情が爆発しやすい。

イ 自分の気持ちを考えることが苦手で、そのまま相手の意見に流されやすい。

ウ 自分の考えは決まっているものの、どのように表現したらいいのか悩んでいる。

エ 野球で上手くないことがあったが、改善するために努力しつづけることができる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本を読んだり、話を聞いたりして覚えるのではなく、自分でじっさいに体験して覚える。このような体験学習の重要性がよく叫ばれる。A、自分で体験してみないと、覚えられないことも多い。私たちはバナナの味や白木蓮はくもくれんの香りを覚えているが、それはバナナを食べ、白木蓮の香りを嗅いだことがあるからだ。そのような体験がなければ、バナナがどのような味がするのか、白木蓮がどんな香りがするのかを知ることができない。いくら言葉を尽くして説明してもらっても、じっさいの体験には遠く及ばない。X 聞は一見に如かずだ。

どんなことでも、それがどのようなことかは、じっさいに体験してはじめて知ることができる。貧乏であることがどのようなことかは、じっさいに貧乏になってみないと、本当のところは知りえない。

あることがどのようなことかは、「どんな感じなのか」とも表現できる。この感じ（そのことに備わるそれ独特の感じ）は「クオリア（qualia）」とよばれる。「クオリア」は、もともとは質を意味する英単語だが、哲学ではとくに感覚的な質を意味する言葉として用いられている。貧乏になると、貧乏のクオリア（貧乏であることがどのようなことか）が知られる。物事のクオリアはその物事をじっさいに体験してはじめて知られるのである。

ただし、物事を体験してそのクオリアを知っても、必ずしもその物事を深く理解したことはない。貧乏になって貧乏のクオリアを知ったからといって、必ずしも貧乏であることが Y にどんな状態なのか、自分の人生にどんな影響をもたらすのかを詳細に知ったことにはならない。ただたんに貧乏であることがどんな感じなのかを知っただけにとどまることもある。

① 物事のクオリアを知ることが、物事への深い理解を意味しないが、物事の理解の重要な側面のひとつである。バナナの味について、その神経科学的な事実（バナナが味蓄をどう刺激し、その刺激が脳のどの部位に伝えられてどう処理されるか）をいくら詳しく知っても、バナナの味のクオリアを知らなければ、味の理解にとって決定的に重要なことを欠いていると言わざるをえない。

じっさいに体験してクオリアを知ることが、物事の理解にとって重要である。しかし、じっさいの体験が悪い結果をもたらす場合は、わざわざそのような体験を試みることは避けるべきだ。人を傷つけることがどのようなことを知るためには、じっさいに人を傷つける必要があるが、だからといってそれをやってみるべきではない。何らかの事情で他者を傷つけてしまい、それによって他者危害のクオリアを知ることがあるが、そのクオリアを知るために、わざわざ他者危害を試みることは許されないだろう。

② 悪い結果をもたらす物事については、体験学習は控えざるをえない。B、それでも擬似体験は可能である。じっさいに人を傷つけることが許されないとしても、たとえば人を傷つける演技を試みることはできる。演技はじっさいの体験ではないから、本当

のクオリアを知ることにはならないが、擬似的なクオリアを知ることができる。演技で人を傷つけても、その傷つけられた人が演技で苦悶の表情を浮かべ、強い怒りのまなざしを差し向けてくれば、他者危害のクオリアをある程度は知ることができよう。少なくとも、そのような演技をせずに、たんに言葉で理解しようとするだけの場合と比べれば、擬似的とはいえ、それなりのクオリアを把握できるだろう。

体験は手間暇がかかる。擬似体験ですら、そうだ。言葉で知ることができるなら、そのほうがはるかに手っ取り早い。しかし、体験して覚えることはきわめて重要である。体験しなければ、クオリアを知りえない。クオリアを知っても、必ずしも深い理解にはならないが、それでもクオリアの知は物事の理解のひとつの重要な側面なのである。

私たちは世界を知覚や情動によって感知し、それにもとづく行動をすることで世界に働きかける。そしてその結果をふたたび知覚的・情動的に感知し、また新たに世界に働きかける。このような知覚や情動と行動の絶えざる循環が私たちの体験の世界だ。本書では、「感情」という言葉ではなく、「情動」というあまり馴染みのない言葉をあえて用いるが、それは心に「感じる」側面ではなく、心臓の鼓動や手足の震えなどの身体の「動き」の側面を強調したいからである。恐怖はたんに怖いという感じが心に生じるのではなく、それに加えて心臓が高鳴り、身体が震えることである。

知覚や情動と行動の③絶えざる循環からなる体験の世界は、とりわけ「一人称の世界」である。私は「いま、ここ」にいて、そこから世界を感知し、世界に働きかける。C、私はいま、公園の池のそばにいて、そこから美しい花を見つけ、その花に感動し、それに近づく。このように私のいる「いま、ここ」という特定の位置から、世界を知覚し、情動を抱き、世界に働きかけることが、一人称の世界である。世界のなかで「いま、ここ」という位置を占めて、そこから世界と交わる存在は「世界内存在」とよばれる。一人称の世界というのは、ようするに世界内存在として世界と交わることによって、自分に立ち現れてくる世界にはかならない。

これにたいして三人称の世界は、自分を世界の外に置き、その外側の視点から俯瞰的に眺めた世界である。それは「いま、ここ」からの眺め (the view from now and here) ではなく、世界のどこにも視点を置かない、「どこ」からでもなく眺め (the view from nowhere) である。「彼は喫茶店に行き、彼女は図書館に行った」と語るとき、私は彼や彼女のいる世界から自分の身を切り離し、世界の外側の視点からただ世界を眺める。私は世界を超越しているの、世界に身体でもって働きかけることはできない。超越的視点から世界を眺めるだけである。神なら、超越的視点からでも世界に働きかけることができるかもしれないが、人間はただ眺めるだけである。

(信原 幸弘「覚える」と「わかる」より)

※「味蓄」… 味覚を感知する器官

問一 A C にあてはまる語としてそれぞれ適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば      イ たしかに      ウ ところで      エ しかし

問二 X にあてはまる言葉を漢字一字で答えなさい。

問三 Y にあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 教育的      イ 主観的      ウ 経済的      エ 感覚的

問四 線部 a 「側面」・ b 「超越」の意味としてそれぞれ適切なものを次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 正しく向き合うこと      イ ずば抜けていること  
ウ 変わり目を過ぎること      エ さまざまな方面のこと  
オ いろいろな性質の中の注目すべきこと      カ 他に並ぶものがないこと

問五 線部①「物事のクオリアを知る」とはどういうことですか。三十字以内で説明しなさい。

問六 線部②「悪い結果をもたらす物事については、体験学習は控えざるをえない」とありますが、なぜ体験学習を控える必要があるのですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体験するよりも、言葉で学習する方が効率がよいから。  
イ 演技で他者を傷つけても、本質を知ることができないから。  
ウ 他者を傷つけることで、自身も傷ついてしまうから。  
エ 他者に対して、危険のある体験は行うべきではないから。

問七 線部③「絶えざる循環」とはどういうことですか。三十五字以内で説明しなさい。

問八 「二人称の世界」と「三人称の世界」の違いを四十五字以内で説明しなさい。

問九 この文章はクオリアに関する前半部分と、視点に関する後半部分の二つに分けることができます。後半部分はどこから始まりますか。その最初の三字を文中からぬき出しなさい。

三 次の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 小説を全巻そろえる。
- ② 遺伝の仕組みを学ぶ。
- ③ 服装を整える。
- ④ 体育祭が延期になる。
- ⑤ 異議となえる。
- ⑥ シゲンを大切にする。
- ⑦ エキの階段を上る。
- ⑧ 結婚式にシヨウタイする。
- ⑨ パソコンがコシヨウする。
- ⑩ アメリカへユシユツする。
- ⑪ 原因をキュウメイする。
- ⑫ 光がハンシャする。
- ⑬ ヨテイを確認する。
- ⑭ ニモツを整理する。
- ⑮ ネットウに気をつける。

問題は以上です。

